

定植本数を変えずに増収できるトマト栽培技術

施設園芸先端技術担当 柴田聖菜

トマトの増収技術として果房直上の葉を葉長が5cmになる前に摘葉する未展開摘葉と、栽培の途中で果房直下の脇芽を側枝として伸長させる側枝伸長が知られています。これらの技術について、処理時期等を検討しトマト増収に向けた栽培管理技術を開発しました。

研究の結果、未展開摘葉は栽培期間中継続し、葉枚数を慣行栽培と同等となるように管理することで増収することがわかりました。増収のためには葉面積の管理が重要です。

側枝伸長は、定植株の2本に1本の割合で1月に発生した果房直下の脇芽を側枝として伸長させ、誘引本数を10aあたり2,222本から3,333本にすることで15～19%増収します。一方で、本試験の栽培条件では1果重の減少が認められました。

未展開摘葉と側枝伸長の1月開始を組み合わせると、主枝、側枝ともに未展開摘葉を栽培期間中継続し、摘果を行うことで1果重を維持したまま19%増収できました。

これらの技術は、出荷先の規格や栽植密度に合わせて選択が可能です。

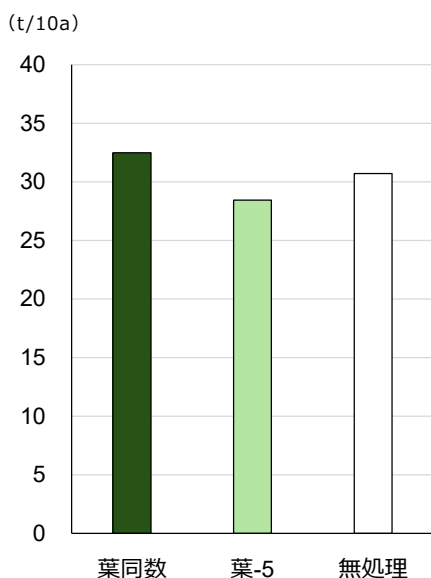


図1 総収量（未展開摘葉処理時）

葉同数区は無処理区と葉枚数を同数に、葉-5区は無処理区と下葉の除去位置を合わせた。

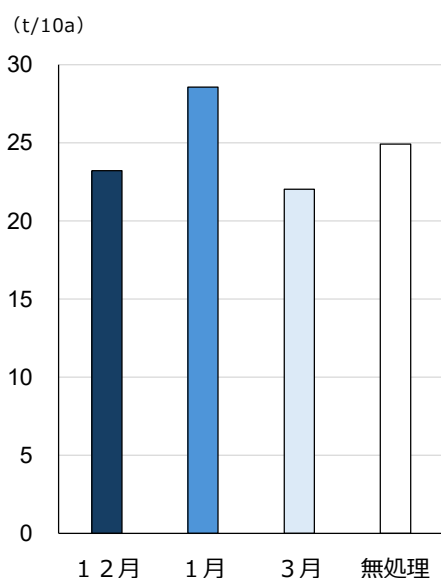


図2 総収量（側枝伸長開始時期）

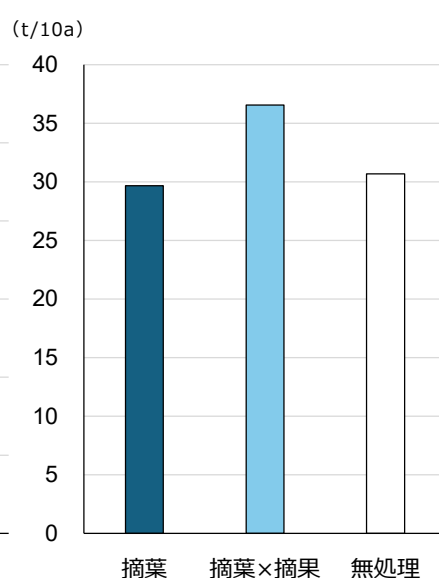


図3 総収量（未展開摘葉と側枝伸長の組合せ）

摘葉区は未展開摘葉と側枝伸長を組み合わせ、摘葉×摘果区は加えて1果房あたり4果に摘果した。